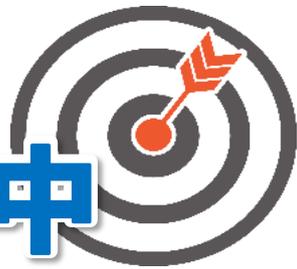


2022  
ズバリ! 的中



世界史

# 京都大学

マラッカ王国の外部勢力との関係（政治的・経済的）  
に関する論述問題が的中！

## 入試問題

前期日程  
世界史B I

### 世界史B (4問題 100点)

#### I 世界史B問題 (20点)

マレー半島南西部に成立したマラッカ王国は15世紀に入ると国際交易の中心地として成長し、東南アジアにおける最大の貿易拠点となった。15世紀から16世紀初頭までのこの王国の歴史について、外部勢力との政治的・経済的關係および周辺地域のイスラーム化に与えた影響に言及しつつ、300字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

## 河合塾

大学受験科 基礎シリーズ  
世界史論述 第3・4講 [2] B

### 第3・4講

#### B ある港市の歴史

以下の文章は、1511年にポルトガルによって占領されるまで、東南アジアで栄えたある港市（王国）について述べたものである。これを読んで問いに答えよ。

イスラーム世界と中国との関係を樹立した  は、東西海洋交易の中継港としての地位を確固たるものにした。また東西交易における香辛料の需要の増大は、スマトラをはじめジャワ、モルッカよりもたらされる香辛料を求めて  に来航する商人を増加させた。 は16世紀初めには10万人前後の人口を有する都市となっていたが、周辺にほとんど後背地をもたなかったこの港市は、食糧すら自給できず、米をアユタヤ、ペルー、ドゥマックなどから輸入した。商業立国の  にとって、対外関係を安定的に維持することは極めて重要であったのである。

(弘末雅士『東南アジアの建国神話』山川出版社、2003年。出題にあたり一部を書きあらためた。)

問1  に入る、港市（王国）の名前を答えよ。

問2 この港市がイスラーム世界および中国と結んだ関係について、それぞれあわせて200字以内で説明せよ。説明の際、その関係がもたらした結果にもふれること。